

図書案内

2017年 5月号

担当 3-1H 伊藤 3-7H 高橋

恋愛小説特集

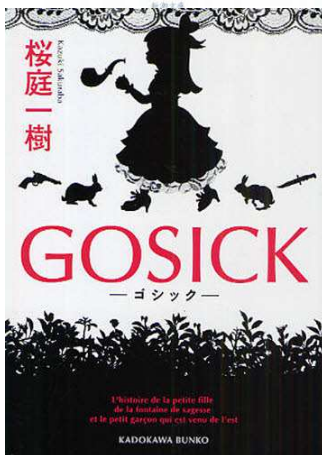
慌ただしい毎日に身も心もお疲れモードになっていませんか？ そんな時には恋愛小説はいかがでしょう。甘ったるい話が苦手な人にもお勧めの四作を選んでみましたので、日頃の憂いをぱあーっと晴らすものよいのでは？ 知のワンダーランド“図書館”でお待ちしています。



『つめたいよるに』 江國香織／著

「人が恋をするということはえらいことですわなあ。ほんとうにえらいことですわ」——不思議で繊細な世界観と甘く冷たい水をすっと煽るような読了感。ページをめくるうちに独特の浮遊感に包まれて、ほろ酔い気分を味わえる短編集。

今朝、私たちは喧嘩をした。よくある小さな諍いだったが、それは私を一日中憂鬱にした。裕幸がはやくふらっと現れて、窓の下で笑ってくれるといい。裕幸の笑顔は百もの言葉になり、たちまち私を安心させる。



『GOSICK』 桜庭一樹／著

ヨーロッパの小国・ソヴェールに留学した久城一弥が出会った、超頭脳の少女・ヴィクトリカ。ともに乗船した豪華客船で殺人事件が起こります。ふたりに危機が迫るとき、互いのために何ができるのか。惹かれ合う二人を中心としたラブミステリー。

この小さな金色の女友達が、自分に“好き嫌い”を教えてくれたのは、これが初めてだということに一弥は気づいた。特別なことを言われた気がした。一弥は微笑んだ。二人は並んで、しばらくその光景をみつめていた。やがて一弥が小声で、「また、こようよ」「…また？」「うん。二人で海を見にこよう」ヴィクトリカはなぜか寂しそうに笑った。「また、か」

【触覚／触感について】

ヒトは皮膚を通した触れあい(ハグや身体的な接触など)を行った後は、血中のオキシトシン(愛情や信頼感に関わるホルモン)濃度が上昇します。原理ははっきりとわかっていませんが、「受け入れられている」という心理的な確信や、肌への接触そのものがオキシトシンの分泌を促すのかもしれない。触れることを楽しむことは、日々の気持ちを平常に保つことにつながられるかもしれませんね。

【出典】『触楽入門』テクタイル／著 朝日出版社 2016年恋愛

豆知識

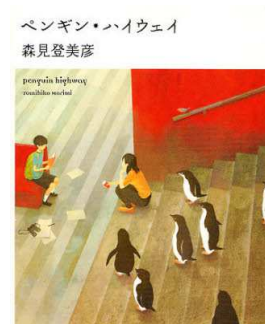
【京都の風物詩～鴨川等間隔の法則～】

京都の南北をゆくりと流れる鴨川。春夏秋冬、どの季節をとっても京都の風景にはかかせない河川である。この川辺で何組ものカップルが座ると、なぜか彼らはいつも等間隔に座る……そんな法則があるのだ。ちなみに、カップルの間に新しいカップルが座ると、両側のカップルは左右の間隔が等しくなるように、何気なくじわじわと移動していくのである。不可思議である。
【出典】天狼院書店 <http://tenro-in.com/articles/team/10556>

『ペンギン・ハイウェイ』 森見登美彦／著

ぼくの住む郊外の街に、ある朝、ペンギンが現れた。このおかしい事件には、歯科医院のお姉さんが持つ不思議な力が関わっているらしい。「この謎を解いてごらん」お姉さんは言った。そしてぼくは、研究をはじめた。森見登美彦には珍しく京都を舞台にしていない作品です。少年時代のドキドキした淡い感情を味わえる一冊。

その日のお姉さんは空豆色のうすいセーターを着ていた。ぼくは盤から目を上げ、お姉さんのおっぱいを見ながら、まるで丘のように盛り上がっているなあと考えた。「こら少年。チェス盤を見るチェス盤を」「見てます」「見てないだろう」「見てます」「私のおっぱいばかり見てるじゃないか」「見てません」「見てるのか、見てないのか」「見てるし、見てません」



『皮膚と心』（『女生徒』収録） 太宰治／著

「太宰の話は暗くて陰気？」——いえいえ、それだけではありません。「皮膚と心」は皮膚病を患ってしまった妻と不器用な夫が織り成す、ちょっぴり滑稽で可愛らしく優しい物語。——読めば、心がほっこり温まるはずです。

「いい顔だと思うよ。おれは、好きだ」そんなことさえ、ぷつんとおっしゃることがあって、……



仲井先生と砂子先生からのお薦め『胸きゅん♡小説』

“I have loved none but you.” (ジェイン・オースティン『説得』[1816年作]より)

アン・エリオットは十九歳の時、海軍士官フレデリック・ウェントワースと愛し合い婚約したが、周囲から「説得」されて別れてしまう。その八年後、アンは大佐に出世したウェントワースに再会する。慎み深いアンは、変わらぬ愛を胸に秘めたまま、ウェントワースの冷淡な態度に苦悶する。半年経ったある日、同じ部屋に居合わせたウェントワースが、巧みな早業でアンに手紙を渡す。
「もはや黙って聞いていることができません。(…) 男は女より忘れるのが早いとか、男の愛情のほうが短命だ、などと言わないでください。ぼくが愛していたのはあなた以外にいません。(…)」

この手紙を読んだ瞬間、アン心の動きに寄り添ってきた読者も、こみ上げる感動と胸のときめきが抑えられない。そして満ち足りた読後感に浸るのである。

“I have loved none but you.” みなさんはどう訳しますか。

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 七月隆文／著

ぼくは彼女や他の誰かに気づかれるという意識もなくして、降りていく彼女のうしろすがたを見ている。(中略)「わたし、ずっとあなたのこと見てたんだよ。気づかなかったでしょ」「……いつから？」「ちょうど、あなたと同じくらい」

『ナラタージュ』 島本理生／著

「ずるいです。そんなのずるいですよ。」「そうだ。僕はずるい人間なんだよ。だから言ったじゃないか、僕は君が思っているほど誠実でも優しいわけでもないって」

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』は昨年映画化されました。『ナラタージュ』は今年秋に映画が公開される予定です。『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』の中に豆知識の【鴨川等間隔の法則】がでくるので探してみてください。